

第1回(仮称)茂原市民会館建設検討委員会議事録

日時：平成30年7月15日（日）10:00～12:20

場所：茂原市役所 102会議室

1. 開会
2. 茂原市挨拶
豊田 正斗 茂原市副市長
3. 委嘱・任命状交付
4. 委員及び出席者紹介
委員8名全員出席
事務局 鶴岡企画財政部長 麻生企画財政部次長 渡部政策推進室長 米倉
(株)シアターワークショップ 今川 渡邊 古川
5. 委員会の役割について
6. 委員長選出
委員長 倉田 直道 工学院大学名誉教授を選出
副委員長 五十嵐 誠 東洋大学経済学研究科公民連携客員教授を選任
7. 案件
 - (1) (仮称)茂原市民会館建設基本構想について
 - (2) (仮称)茂原市民会館建設基本計画について
 1. 基本計画内容とスケジュール

発言者	内容
委員	基本計画の中で管理運営に関する基本的な方針を記載するということだが、管理運営については非常に重要だと思っているので、現段階で詰めるのは難しいかと思うが、基本的な方針というところについては十分な議論をしていただき、なるべく次につながるような具体的なところを目指されるのが良いと思っている。 また、資料3. 工程表に関して、民間活力の導入の可能性について優先的な検討規定を設けて検討するということだが、PFI といった狭い概念で捉えるのではなく、民間活力といっても幅広いものがあり、例えば、市民との協働、NPO 法人が運営に携わるなど、そういったことも含めて幅広く考えていって欲しい。VFM が出ないから民間活力の導入は無理だという短絡的な結論は出さないほうが良い、ということ念頭に置いた方が良い。
事務局（市）	おっしゃる通り、しっかり考えていきたい。管理運営計画については基本設計に入った段階で策定していくが、下地としてそういった話を庁内含めて進めていければと考えている。
委員長	ご指摘あった点については大事なことで、アドバイスに沿って検討をしていって欲しい。
委員	8/3に開催する高校生ワークショップ参加者は確定しているか。

事務局（市）	35名は確定している。3校は決まっているが、あと1校が決まっていない。
委員	若い人の盛り上がりや関心度はどうかというところを聞きたい。
委員長	別の場所で高校生ワークショップを経験しているが、やはり非常に意義があった。高校生から前向きな提案もあり、例えば合同の文化祭をやりたいとか、施設を使った高校同士の交流をやりたいといった意見がどんどん出てきた。そういった意味では高校生の参加というのは、新しい施設の利用という点では非常に意味があると思う。是非やっただくと良いのではと思っている。

2. 検討結果報告

ワークショップ

委員	ワークショップについて、今までだいぶ具体的とはいえ非常に夢のある提案をしてもらっているようだが、3回目では模型を使ってということで、一気に具現化されたスケール感、数字が入ってくる。このあたりは事務局で作業をして、それをもとに3回目を開催するということか。 また高校生ワークショップも非常に楽しみではあるが、3回目の後に開催するということで、どの程度の意見、どういった意見を吸い上げるのか。
事務局（TWS）	基本的には高校生、若い人の意見も同じように吸い上げようとしている。
委員	非常にタイトなスケジュールの中で決めていくようだが、2回目までで広げてきたものを取捨選択していかなければいけない段階。うまくまとめていただき、新たに出てきた高校生の意見もその後できるだけ反映できるようにお願いしたい。
委員	是非、高校生の考え方を取り入れていって欲しいが、スケジュールがタイトで意見を吸い上げる期間が短すぎるのではないか。場合によっては、高校生ワークショップをやってみて、もう1回やってみた方が良いという意見が出てきたら、増やしていったらどうか。
事務局（市）	高校生のスケジュールとなかなか合わず、このようなタイトなスケジュールになっている。可能であれば2回目も含めて考えていきたい。
委員長	私の経験でも高校生たちは非常に期待を持っている色々な意見を出してくれる。やってみた結果、1回ではおさまらず、最終的に3回やったということもある。特に高校同士で交流してやっていこうという意見、独立した高校の中で完結して活動している高校生たちが、そういった施設の利用を通して横に交流していこうという話がどんどん出て非常に面白かった。
委員	今の話はソフトウェアに関するワークショップの件だが、今後も雰囲気盛り上げていくようにしてもらえると良い。
委員長	ワークショップを進めていくとどんどん夢が膨らんで、いろいろな機能が欲しいということで、面積もどんどん大きくなっていくという傾向がある。長野県茅野市民館においても、それを絞り込むという段階で市民ワークショップを活用した。市民が優先順位をつけ、ある程度想定していた規模に抑えた。上手にワークショップを利用していき、夢をなすだけでなく、実務的な活用も考えていくべき。ワークショップに参加された方が

	将来運営に参加するということもある。ワークショップ自体が大事な資源となっており、茅野市でも実際に運営に参加してもらってきた。そこまで意識して活用したい。
委員	北陵高校のダンス部はとても精力的に活動しており、アメリカのコンテストに参加している。そのようなパフォーマンスを人にお披露目できるような舞台をつくるのはどうか。七夕祭りで、「よさこい」をストリートだけでなく現市民会館を使い、演舞を披露するなど、一般の市民や祭りで使えるような市民会館として活用するということを提案したい。

建設候補地、施設構成案、施設イメージ

委員	由利本荘市と茅野市の施設利用頻度、稼働率、利用客の内訳はどうなっているのか。また、客層は都心から訪れる人が多いのか、それとも地元の人が多いのか。茂原市は都心から1時間というアクセスを活かし、利便性・回遊性を高めて地元の活性化ということが期待できる。市民会館を使って経済的な部分に貢献できないか。
事務局 (TWS)	茅野市民館は稼働率が非常に高い。市民利用だけでなく展示会などの利用も多い。館側からの働きかけによる自主事業も活発。利用目的に関してあまり制限をかけないため稼働率は高い。市民の側からも積極的に利用している。練習利用やワークショップなども活発に行われている。公共施設という特性上、利用料を高く設定できないため、それだけで会館を維持管理するのは難しい。しかし利用料に期待するというだけでなく、市民に使ってもらうことが大事。イベントのない時でも利用者は多い。
委員	可動の客席について。多目的に使うという意味では可能性を広げられて良い反面、メンテナンスの費用、使用料と使い勝手の問題から、経済的なことはシミュレーションが必要ではないか。どういうニーズがあるのか、可動のものがどういう状況でどんな目的で使われているのか、使用料も含めて定量的に数字を出す必要がある。
委員	由利本荘市、茅野市、両方の施設とも見ているが、由利本荘市はアクセスの良いところではない。また、茅野市の位置関係は微妙であり、長野県の中心ではないため、諏訪湖を中心とした文化圏の中で使われている。その点、茂原市の場合は東京から1時間という微妙な距離。この2つと必ずしも同じ状況ではない。由利本荘市は図書館、公民館機能が含まれた形であり、茅野市は駅前立地、美術館が入っている。では茂原では何を中心とするのか。敷地を決める段階では中央公民館機能が非常に重要なファクターであると考えている。茂原市市民会館の中身が地域にとってどのような意味があるのか、明確にされないと計画は決まっていけない。
委員長	施設構成、イメージということで意見を求む。
委員	施設だけの議論になっている。市民会館が誰のために、誰が使うか、ということから規模・面積が決まっていく。周りからのお客さんを電車で呼ぶのか。市民のために建てるのであれば、敷地がどこであろうと駐車場がセットでないといけない。交通条件の中でアクセスが良い・悪い、と書いてあるが利用者は概ね車で来る。現敷地に建てたとしても駐車場が必要だということが絶対条件。平土間としているいろいろな使い方をする場合、現敷地で足りるのか、立体駐車場を入れて同じ敷地内で作れるのか、という問題が出て

	くる。可動式、可変式の客席に関しては、セットにかかる時間、定期的なメンテナンスの有無、故障の有無および頻度などを聞きたい。
委員	交通アクセスの問題について、駐車場が必要だという認識はある。茅野市民館で電車待ちの人や勉強している学生がいるという現象は、駅に隣接しているからこそ起きている。茂原において、地元の高校生の人たちが自分たちの拠点として使うときはどこが良いのか、ということはこの地域の問題として考えなければならない。敷地全部を見てきたが、セントラルモールの場所は地型も良い上に広く、交通の便が良い、駐車場もいくらでもとれるが、高校生がふらっと来るというイメージは全くできなかった。どこが良いか悪いかというのは、市にとってこの建物がどう在るべきかというまちの中での位置付けの問題である。
委員	敷地選定において、茂原小学校はイメージしていなかったのか。敷地も大きく駐車場も取れる。教育関係施設のため難しいかもしれないが、駅前の立地も含め、区画整理の敷地ではなく、隣接したところの手頃な敷地として小学校がある。検討する中に小学校は出てこなかったのか。例えば茂原小学校自体は児童が減っている。学区を広げ、茂原小学校へ児童を集めるのであれば、逆に萩原小学校や西小学校を利用する手もあるのではないか。
委員長	敷地の話、実際に検討の対象となったか。
事務局（市）	小学校については出ていない。
委員長	まずは施設内容についてのご意見が欲しい。紹介いただいたものも施設としてかなり高性能なものを導入している。由利本荘市の方は特にそうだが、茅野市民館については、機械というより人的に動かせるようにして低コストにしている。舞台機構も含めてレベルの高いものを導入すると、専門家が入らないと運用が難しいというのも現実。運営の話に関わってくるのかもしれないが、先ほどの質問だけでもお答えいただきたい。
事務局（TWS）	茅野市民館の転換（可動椅子を動かし平土間へ）については時間が短くなってきた。市民団体の方でサポートされている団体があり、そちらの方がアルバイトという形で協力してくださっていると聞いている。6人くらいで2～3時間くらい。具体的な時間は確認する。通常の舞台の中だけを変える場合よりも、どうしても時間はかかる。午前・午後の中の1時間での転換はなかなか難しい。
委員	稼働率高めるには転換時間は課題となる。
委員長	茅野市民館が違うのは大きなホールが多目的、小さいホールは音楽専用という使い方をしている点。茂原は小ホールが多目的。そこの組み合わせによっても変わってくる。
委員	今回、中央公民館の機能も複合化するのか。併合したような施設となるのか。
委員長	そう理解している。
事務局（TWS）	茅野市の保守について、床機構だけの費用だが、年に2回保守を行うのに年間160万円程度（数年前のデータ）。これは機構が複雑かどうかというよりも、作業人数で変わってくる。5人で3日かかる。
委員	人的機構でもそれだけかかるのか。

事務局 (TWS)	エアーを送り込むための機械、パッドに異常がないか、などの確認を行う。舞台機構としては人的に動かすシステムである。このエアーのシステム自体は昔からあるが、舞台機構として採用されている事例は限られてくる。
委員	途中で劣化してパーツ交換が必要になった場合や、本体に複雑な電子的なものを導入した場合、最新の設備を入れるのは良いが、保守・修理に費用がかかるのでは。
事務局 (TWS)	茅野においては電動制御というわけではなく、シンプルなつくりである。
委員	可動ということを前提としたときに茅野市民館はそこまで複雑ではない。由利本荘市の方が複雑かと思う。茅野市は人的にやるような形のため、市民の方の協力があれば動かしやすい。実際に計画段階でも、そのような機構を導入しても結局は固定利用が多いのでは、と言っていたが比較的いろいろな形で利用されているのではないかと思う。それだけ簡易である。コスト的にも由利本荘市とは異なる。
委員	建物は複層になるのか。公民館機能も加えた場合、駐車場が 500 台くらい必要になるかもしれない。その結果 2 階建ての建物になるのか。
事務局 (TWS)	駐車場の面積を重視するとなると、一部は複層とならざるを得ないかもしれない。
委員長	駐車場についてはしっかり多角的な議論をしなければならない。高校生の利用を考えると車は使わない。また高齢化も進み交通弱者の増加ということを考えると、車社会は今はピークであり、自家用車の利用は今後減ってくる傾向。社会的にも公共交通の充実が避けられないであろう。他のケースでも議論に上るが、駐車場はピーク時に合わせて確保するのか、または通常時に合わせて数を確保するのかという点でも変わってくる。必ずしも敷地の中だけで全てを確保するのではなく、比較的近隣に駐車場を確保し、ピーク時は公共交通に順ずるものを利用してもらう方が良いという場合もある。敷地の中に駐車場を多く設けすぎると、利用が集中して出入りに時間がかかる。敷地の選定にも関わる問題だとは思いますが、きちんと検討すべき問題であると考えている。
委員	田舎に住んでいると、駐車場のない施設に行くということが考えにくく、公共交通を生かしておくのもお金がかかる。駐車場については上位の課題として検討するしかないのではないか。茅野市民館だと駅から近く電車利用も多いが、茂原は東京が近いがゆえに、茂原+αの地域から車でやってくるという状況が一番考えられる。駐車場問題は先に検討しておかなければならないのではないか。

3. 建設候補地について

委員長	建設候補地について。駐車場も密接に関わるが、候補地についての意見がほしい。
委員	高校生や高齢者がどうアクセスするのかという点について、考える必要がある。路線バスあるいは新たなバスによるアクセスが確保できるのか、地域の高校生がどう移動しているのかなど、地元の感覚、日常に応じてアクセスを確保してあげるというのはどこの敷地でも必要となる。新たに敷地を買うということは、公共資産の有効活用ということを考えてみると、いかがなものか。新たに買う場合、今ある敷地を減らすなど、代替として考えていく必要がある。全体の資産を増やすことは方向性としては良くないのではないか。

<p>委員</p>	<p>実際に足を運んでみた感想。二宮地区はみていない。</p> <p>セントラルモール敷地については、地型は良く、車のアクセスもしやすい。ただ、中央公民館がよく使われている事実は大切にしたいので、ここに建てるというのは現在の建物と意味の違うものになってしまうのではという印象。</p> <p>駅前についてはたしかに駅に隣接しており、横浜であれば駅ビルの中にホールがある事例もあるが、これは都市型の施設であり、あくまで鉄道を中心に動いている場所。こちらで無理をしてまでつくる必要はないのではないかと。当然顔にはなるので、駅の一部ということであれば、ありかもしれないが、なかなか難しい。</p> <p>区画整理事業敷地について。魅力的な地域。しかし敷地は狭く、無理だということも感じた。もともとにぎわいがあつた地区だとは感じる。市全体の都市計画上、整理されれば重要な拠点となり得る。しかし現実的に今のままでやっていくのは無理である。駅から近いが駐車場をどう設けるかという問題もある。使うときと使わないときの差が激しい中で、慎重に区画全体で考えないといけないのではないかと。魅力的な場所ではあるが、現実的にはどうかと思う。</p> <p>現敷地について。積層化されなくてはならないが、地型的にも大きき的にも良いのではないかと。個人的な経験として、埼玉県のある市では、市の両端に主要鉄道が走り、それぞれに駅があるが、その中間に役所と市民会館を建ててしまい、不便であるという状況がある。各駅から歩くと1時間以上かかり、バスが必須。それに比べると今の場所はまちの中心として整備されているため、それなりにポテンシャルのある場所という印象である。</p>
<p>委員長</p>	<p>まちづくりの観点から意見する。立地適正化計画も検討すると伺っており、都市のコンパクト化を進めようとしている。茂原市で計画されているかは分からないが、公共施設総合管理計画なども将来の人口減少時代に、たくさんの施設をできるだけコンパクトに、ある程度集約していこうという流れがある。その点、現在の敷地にはメリットがあるかと思う。庁舎に隣接している点、車以外のアクセスも考えられている点。また駐車場に関してもタイムシェアリングができる。大きな催物は夜間や週末が多く、その間庁舎はあまり使っていない。その時間は駐車場をシェアする、といったことを行えば問題も改善されるだろう。他の敷地について。セントラルモールについて、地型も規模も良く施設を作るのは楽だが、現在の場所よりもかなり離れているということもある。これからの市民会館、公民館も含めてだが、市民の居場所ということを考慮しなければならぬと考えると、目的がなくてもふらっと立ち寄れる必要がある。その点、セントラルモールは目的をもっていかないと難しい場所だなという印象。</p> <p>商店街のあたり、区画整理事業敷地について。位置的にはかなり良い場所だが、いかんせん規模が小さく、ここで施設整備をするのは難しいのではないかと。</p> <p>今回加えられた場所、二宮地区について。セントラルモールと同じ課題がある。また、いまの土地利用から市民会館・公民館という利用用途に変更をしていくのは難しい。</p> <p>駅前について。駅に隣接していることは非常に好ましい状況。一方で土地の条件を考えると、現在使われている施設があり、それを壊してそこに作るということだけでも、ク</p>

	<p>リアしなければならぬハードルがたくさんある。かなり時間もかかり、新たな経済負担となる。条件が十分に整理されていないということを考えると難しい。</p> <p>やはり、比較の問題ではあるが、市民会館の候補地としてはこの中で選ぶとすれば現敷地が良いのではと思う。</p>
委員	<p>現敷地までは駅から頑張れば歩けるという距離。回遊性という点で考えると今の敷地がしっくりくる。</p>
委員	<p>昭和 61 年に中心市街地活性化計画、当時シェイプアップマイタウン計画というものにエントリーし、日本の 26 都市の中の一都市として認定された。町の活性化の走りであった。ただし、そのときは道路整備の補助金をもらうために力をいれていたが、その計画の中でこの地区をシビックゾーンとして位置づけた。何をやったかという、まず県の施設である長生地域振興事務所をバイパスの向こう側へ配置し、税務署やハローワーク等を橋の近くにまとめて配置した。本来の計画からすると、シビックゾーンであるここに落ち着くのが一番。昔からこのあたりを官庁街にしようということがあった。</p>
委員長	<p>今のお話には非常に説得力がある。他の公共施設もここに集中しているということであれば、公民館と合築した施設というのは理屈としてもここに持ってくるというのは良いのではないか。市民会館だけに行く、市役所だけに行くというだけでなく、立ち寄ることにもなってくる。また、将来公共交通を整備する場合には、ある程度施設が集約されているということであれば、集中的に整備ができるかと考えると非常に効率も良い。コンパクトシティ化という方向にも合っている。別の問題として、駅を中心とした既存の商業地をどうするかということも出てくると思うが、今回の場合は、現地が適当ではないか。また、しばらく市民会館を使えない時間があることを考えると、他の敷地だと使えない時期がかなり長くなってしまふ。そういった意味でも、この敷地であれば時間的にも計画を立てやすいということもある。</p>
委員	<p>用途地域変更となるのか。</p>
事務局（市）	<p>用途地域変更は計画を立てれば担当課が動く。問題ないと考えている。</p>
委員	<p>いまの少子高齢化の時代から 10、20 年たった際、利用者の年齢層がどのように変わっていくか。自治会もどんどん高齢化しており、情報の得方も若い人とは全く異なる。高齢者は市の情報については自治会を通じて回覧する。利用者が年々どのように変わってくるかというのは大事。利用者の年齢層とあわせた場所ということを考えると、たしかに現在地は非常に大事な場所である。問題は、高齢者が将来的にどの程度利用するかということ。現在、高齢者の交通事故が非常に多く、免許返納をさかんに指導しており、公共交通についてはデマンドタクシーや市民バス等を運行しているが、利用率があがってきている。年齢層を含めた人口移動を考えた位置付けを考えなければならない。高校生の人、若い人の活動の場、催し物も良いが、高齢者も来られるような位置付けにしたい。</p>
委員	<p>公民館を修繕でこのまま使うというのは無理なのか。6 年かかると高校生も二回りしてしまう。世代も一段階上がってしまい、考え方も変わってしまうのではないか。費用と期間を圧縮できる方法があればと思うが。</p>

事務局（市）	期間の圧縮、整備手法という中、PFI/PPP 検討の中で考えていければと考えている。市としても資金計画もあり、他の教育、民生等の計画との折り合い。ひとつひとつ整理しながらやっていかなければならないというのは重々承知している。利用者については、市民センター改修の際には他の公民館等へ分散していたという状況がある。多少制限される部分はあると思うが、そういった他の場所で活動をしてもらい、後にまた戻ってきてもらうということはあるのではと想定している。年月を経れば考え方も変わってくるかと思うが、施設を利用しようという方向は変わらないのでは。我々が目指そうとしているのは、ふらりと目的なく立ち寄れるという施設としているのでかえって人は集まってくるのではないか。
委員	中央公民館は施設の劣化が進んでおり、このまま使うのは難しいと思っている。建替えの間の利用ということについては、他の公民館、学校施設を利用する等、そういう形で利用を分散していく。より地元の施設を活用していくという方向で考えることも必要。
委員長	今回の施設づくりを考えていく中で、その間どうするかということは考えていかなければならないこと。
委員	500－600 人、人を集めるとなったときは市民会館を利用するしかない。プラザヘイアンが閉館して、茂原の中に箱がないという状況がずいぶん長いこと続いている。
委員	中央公民館は危険な状況。その間どうするかというのは、近隣の市町村施設を利用することも考える必要があるのでは。
委員長	皆さんの意見伺っていると、委員会として、建設候補地として現在の市民会館・中央公民館敷地が良いのでは、ということで問題ないか。
一同	異議なし。
委員長	建設検討委員会の意見として、建設候補地は現市民会館・中央公民館の敷地とさせていただく。
事務局（市）	現在の場所とするが、いろいろと状況が変わり、別の候補地が出てくればそちらも併せて検討をとということで委員会の意見とさせていただく。

8. その他

9. 閉会